

No. 67

2014年11月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774 (39) 9256

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (39) 9182

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774 (39) 9226

特別記念号

中央図書館開館30周年

としょかん宇治

図書館ホームページ <http://library.city.uji.kyoto.jp/> (携帯電話 <http://library.city.uji.kyoto.jp/i/>)

中央図書館の開館 三十周年に寄せて

宇治市教育委員会
教育委員長 西野 正博



図書館には、調査・研究のための図書を求める、教養や娯楽のための図書を求める、など様々な目的を持った方が来館されますが、私は、必要な図書を探すとともに、静寂や緩やかな時の流れと凛とした空気を満喫する、ために利用します。

貸出・返却時の対応、知人との話し声、移動の足音、ページをめくる音に至るまで、誰もが周りの人に気遣いをし、当然のようにマナー

やエチケットが守られている、図書館ならではの素晴らしい得がたい空間があるからです。

現在、市民の生涯学習の一翼を担う市立図書館は、「中央」「東宇治」「西宇治」の三館があり、一番古い歴史を持つ「中央図書館」は昭和五十九年十一月に開館し、

「本の修理ボランティア」「宇治子ども文庫連絡会」「おはなしサークルたんぽぽ」「おはなしたまてばこ」など、多くの方々のご協力、

ご支援のもと、今年めでたく開館三十周年を迎えました。その歩みのなかで、市民や利用者のニーズに応え、予約図書配本制度、府立図書館や小・中学校図書館、京都文教大学図書館・京都文教短期大学図書館との連携などに積極的に取り組んできました。

現在、絵本や紙芝居、古典文学やベストセラーなど、子どもから大人までの幅広い年齢層に対応した様々な図書が揃い、蔵書冊数も開館当初の五倍の三十万冊を超えています。

さて近年、電子書籍や情報が潮流を成し、本や新聞・雑誌が担っている活字文化の衰退が叫ばれ、次代を担う子どもたちの読書離れが危惧されています。教育委員会と



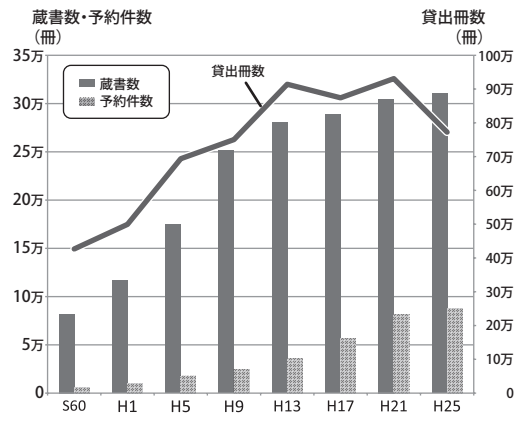
いたしましても、大きな課題だと捉え、公立図書館の果たすべき役割の再確認を行っていたところです。この度、生前に中央図書館をよく利用されていた大西利治様から、「青少年の図書充実のために」と多額の寄付を頂戴いたしました。そのご遺志に沿って、三図書館全

てに、子どもたちの読書離れをくい止め、読書活動の推進を図るための、『大西利治文庫』を創設いたしました。

大西様のご好意に感謝申し上げますとともに、そのご意向が生かされ、子どもたちだけでなく多くの方々が、この文庫を有効に活用していただくことを心から願っています。

30年で貸出は2倍に、予約は14倍になりました

宇治市の図書館は昭和四十年、市民会館完成時に「図書室」として、館内閲覧中心に二千三百冊でスタート。そして三十年前、文化センターと同時に中央図書館を開館し、本格的なサービスを開始しました。その後、平成四年に東宇治図書館、九年に西宇治図書館が開館。貸出冊数も一人三冊→五冊→十冊となり、移動図書館に替わり始まった予約図書配本サービスも年々利用が増えています。



三十周年を迎えて

宇治市図書館友の会

会長 中嶋 馨

宇治市の中央図書館は市民待望の中、昭和五十九年十一月に開館され、今年で三十年を迎えられました。誠におめでとございます。図書館は市民の皆様が、誰でも、いつでも、自由に利用できる唯一の公共施設です。広く市民の皆様にご利用、活用されるよう、また、どの地域にお住まいの方でも、気軽に利用出来るよう、益々発展していく事を期待致します。

三十周年に寄せて

本の修理ボランティア

代表 三木 慎一

中央図書館が開館してほぼ十年が経った頃、私たちのサークル「本の修理ボランティア」はスタートしました。週一回二百冊前後の本を修理していますが、実に様々な本があります。図書館は知識の宝庫です。特に子供たちには知識を得るだけでなく、物事を考える出発点にしてもらいたいと思います。共有財産である本を大切に扱って頂くことは言うまでもありませんが、本が擦り切れるほど、色々な本を沢山読んで頂きたい。私たちも一生懸命に修理しますから。

大西利治文庫の創設について

故大西利治さんからの、「図書館の児童書や青少年向け図書等の整備に活用してほしい」という遺志を受け、宇治市の三図書館に「大西利治文庫」を創設することとなり、十月十八日、中央図書館の児童書コーナーにおいて、「大西利治文庫」の除幕式を執り行いました。大西さんから託された寄付金を基金として積み立て、今後二十年あまりに渡って活用していくこととなりました。今年、初年度と

利治文庫の書架とおよそ七百冊の児童書、青少年向け図書を購入し、中央図書館では、児童用のテーブル、椅子も新調しました。本には「大西利治文庫」のラベルを貼り、大西さんのご厚意を顕彰しています。

大西文庫は、児童向けの図鑑、生まれて初めて赤ちゃんが出会う絵本、弱視の児童向けの大きな活字の青い鳥文庫、また、青少年向けに将来の夢の実現に役立つ「なるにはブックス」、手塚治虫のコミック等、赤ちゃんから青少年までが楽しめる、充実した内容です。来年度以降も、大西さんのご遺志に沿うよう計画的に、子どもたちの読書環境の整備を図ります。

宇治市図書館は、宇治市の子どもたちが豊かな読書経験をもつ大人に成長するために、今後も子どもたちの読書活動の支援に力を注いでいきます。

宇治市図書館は「大西利治文庫」でいっそう本が豊かで、楽しい雰囲気図書館になりました。子どもたち、市民のみならず、どうぞおこしください。



図書館へようこそ

第 52 回

絵本作家に

インタビュー

宮西達也さん



今回は、

10月18日に大西利治文庫創設記念講演会に講師としてお招きした

絵本作家の宮西達也さんに、講演会終了後、お話を聞きしました。
* 宇治のお客さんの印象はいかがですか。

宮西さん (以下M) :

宇治のみなさんは、のつてくださり、やりやすかったです。楽しかったです。
* 子どもの頃は、どのようなお子さんでしたか。

M : とにかく、町でも有名ないたずら坊主でした。野山を駆け回っていました。

* 子どもの頃、どのような本を読みましたか。

M : 虫などの図鑑を見るのが好きでした。また母が、アンデルセンや

グリム童話をよく読んでくれました。

* 絵本に興味を持たれたのはいつごろ、また絵本作家になった理由は。

M : 大人になってから。たまたま一冊の絵本を作る機会があり、子どもたちが、笑ったり感動してくれて、絵本の力はすごいと思いついて、絵本を描いていこうと思いました。

* 宮西さんの絵本のキャラクターはユニークですが、それはどのような時に浮かびますか。

M : 子どものときの体験を通してです。童話の中のオオカミやブタなど。また実際捕まえたカエルを触ってみて、またアリの観察をしたときの経験から。

また子どもは、お父さんがヒーローであつてほしいと、願っています。僕らの時代のヒーローは、ウルトラマン。そうして絵本の主人公が浮かびました。

* 宮西さんの絵本を読む子どもたちに望むことは、ありますか。また作家として心がけていることは、何ですか。

M : 絵本には、それぞれテーマがありますが、とにかく忠実に楽しんでほしい。作者は、やさしさと思いやりをこめて作っています。

* 多方面でご活躍ですが、今後やりたいことは、ありますか。

M : 周りの人に勧められ映画製作・個展をやる予定ですが、まず一

番にこれからも絵本を書いていきたいと思っています。

* 子どもの読書に関わる仕事やボランティアをしている人に望むことは、ありますか。

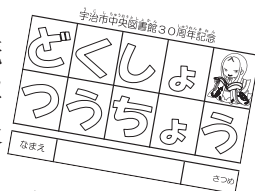
M : 読み聞かせのときも、まず自分が楽しむことです。そうすれば自然と子どもに伝わり楽しくなります。

* 最後に子どもたちに、本を読んでもんなことを吸収し、学んでほしいですか。

M : 本を読むと疑似体験ができます。今の子どもたちは、大変忙しいです。静かな時間を持つて、本を読むことで色々な世界へいきます。また本だけでなくバランス良く、遊んだり勉強したりしてほしい。そして大人は、楽しかった子どもの時代を今の子どもたちに教えてあげてほしい。

より一層の、ご活躍を祈念いたします。本日は、ありがとうございます。

読書通帳ができました



図書館では、子どもたちに楽しんで読書をしてもらおうと、読書通帳を発行しました。

読んだ本のタイトルを三十冊まで記入でき、感想は印(下記参照)が付けられます。表紙は子ども自身で色を塗れますので、世界で一つの自分の通帳ができます。三十冊全部埋まれば図書館でかわいいスタンプを押します。期限はありませんので、自分のペースでこつこつ増やして下さい。



●読書通帳、たくさんためてくださいね。



初三郎式鳥瞰図 「誕生」一〇〇年と宇治

初三郎とは「吉田初三郎」のこと。と言っても大部分の方はご存じないだろうが、大正から昭和初期にかけて大流行した鳥瞰図（パノラマ地図）の第一人者で、当時絶大な人気を誇った。

初三郎は、明治十七年（一八八四）京都生まれ。幼い頃より絵を描くことを好み、小学校修了後、友禅図案絵師に奉公したり、京都三越の友禅図案部に勤務しつつ洋画家をこころざす。成人後上京し、黒田清輝らが創立した白馬会、後に帰京して鹿子木猛郎が院長を務める関西美術院にて修行にはげんだ。

大正元年（一九一二）夏のある日、鹿子木に商業美術への転身を勧められる。早速、恩師鹿子木を会社の顧問に迎えて事業を開始。京都大丸の児童室に約三六メートルの大壁画「お伽づ

くし」を描き、翌二年には、初の鳥瞰図作品「京阪電車御案内」を制作する。ただ、洋画家志望の初三郎は「つまらない仕事」と感じていた。

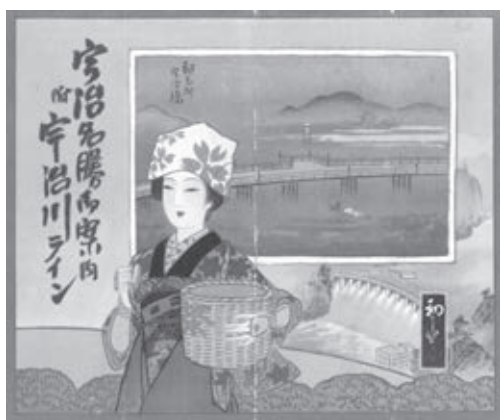
転機はまったく偶然におとずれる。大正三年三月、京都滞在中の皇太子（後の昭和天皇）が宇治などを訪問するため京阪電車に乗車。「京阪電車御案内」を手に取り、「これはきれいでわかりやすい」と賞賛。このエピソードを伝え聞いた初三郎は、鳥瞰図そのものが持つ魅力に気づき、日本中の図を描くことを決意する。後に「初三郎式鳥瞰図」と称する独特の画法を確立し、自他共に鳥瞰図の第一人者と認めるようになる吉田初三郎がその歩みを始めた、まさに「誕生」の瞬間である。ちょうど一〇〇年前の出来事であった。

詳しくは、宇治市歴史資料館発行の図録『日本パノラマ大図鑑』を御覧ください。吉田初三郎については『大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎のパノラマ

地図』平凡社（二〇〇二年刊）、堀田典裕『吉田初三郎の鳥瞰図を読む 描かれた近代日本の風景』河出書房新社（二〇〇九年刊）もあるのので、関心のある方はリクエストしてください。

なお、歴史資料館では、宇治をはじめ日本全国の鳥瞰図を紹介する特別展「日本パノラマ大図鑑」を開催中（十一月十六日まで）。

（れきし・こじま）



初三郎鳥瞰図は表紙も魅力的
昭和五年「宇治名勝御案内」

利用案内

市内に在住、または市内に通勤・通学されているかたは、貸出券を作ることができ、一人十冊三週間、本が借りられます。貸出券は全館共通です。図書館で借りた本は市内のどこの図書館へも返却することができます。

図書館は九時から十七時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第四木曜日（いずれも祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日の場合は平日に振替）、年末年始蔵書点検期間です。予約された本を市内五カ所の施設（木幡公民館、槇島コミュニティセンター、南宇治コミュニティセンター、開地城福祉センター、京都文教大学図書館）で受け取ることができます。原則週一回、木曜日の午後に搬送します。

図書館で借りた本は右記の五カ所の施設へは返却できません。

あとかき

市内三図書館は改修工事を終え、とても明るくなりました。また、この度の大西文庫創設により新しい本が並び、さらに館内がリフレッシュされました。中央図書館は開館三十周年を迎えました。ランガナタンの言葉の「図書館は成長する有機体である」を実践できるよう、今後とも努めていきたいと思えます。